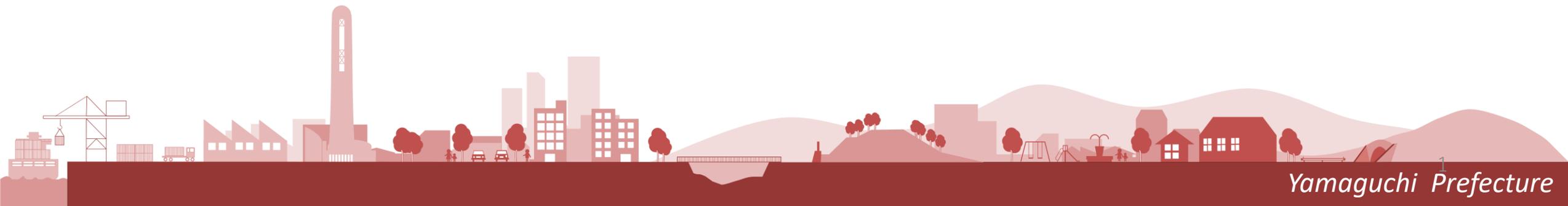


# 建設維新ICT3.0

～小さな現場でこそ光る、ICTの効果～

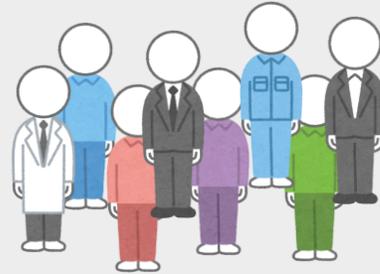
山口県 土木建築部  
技術管理課 建設DX推進班



## 1 労働生産性が低い



労働による成果  
(付加価値)



労働投入量  
(従業員数or時間当たりの労働量)

## 2 イメージが良くない

(旧)3K



きつい



きたない



きけん



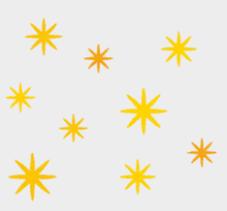
(新)3K



給料  
が良い



休暇  
が取れる



希望  
が持てる

国は令和6年度より「i-Construction 2.0」を掲げ、建設現場のさらなるオートメーション化を推進しています。しかし、地方に多い中小建設会社にとっては、最新の大型機器や大規模なICT投資は現実的ではなく、“夢の世界”のように感じられるのが実情です。

そこで山口県では、現場の規模や企業体力にかかわらず、身近なICT活用を通じて中小建設会社の生産性向上と働きがいの向上につながる取り組みに重点を置いています。この考え方のもと、県独自の方針である「建設維新ICT3.0」では、特により小規模な現場でも効果が実感できるICT活用やデジタル化を進めていきます。

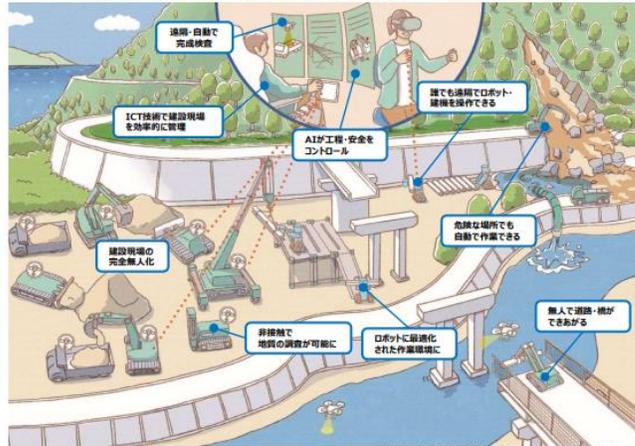
山口県の目指すのは、“すべての現場がデジタル化の恩恵を受けられる建設現場づくり”です。

## i-Construction 2.0 (建設現場のオートメーション化)



- 建設現場の生産性向上の取組であるi-Constructionは、2040年度までの建設現場のオートメーション化の実現に向け、i-Construction 2.0として取組を深化。
- デジタル技術を最大限活用し、少ない人数で、安全に、快適な環境で働く生産性の高い建設現場を実現。
- 建設現場で働く一人ひとりの生産量や付加価値を向上し、国民生活や経済活動の基盤となるインフラを守り続ける。

i-Construction 2.0で実現を目指す社会(イメージ)



第5期技術基本計画を基に一部修正

### i-Construction 2.0 で2040年度までに 実現する目標

#### 省人化

- ・人口減少下においても持続可能なインフラ整備・維持管理ができる体制を目指す。
- ・2040年度までに少なくとも省人化3割、すなわち生産性1.5倍を目指す。

#### 安全確保

- ・建設現場の死亡事故を削減。

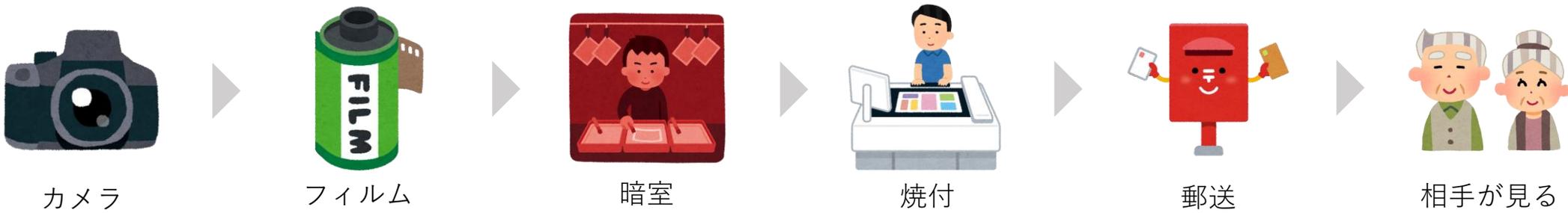
#### 働き方改革・新3K

- ・屋外作業のリモート化・オフサイト化。

**i-Construction 2.0: 建設現場のオートメーション化に向けた取組**  
(インフラDXアクションプランの建設現場における取組)

国交省は  
未来に向けて突き進んでもらい  
山口県は  
建設産業を足元から支えます！

## 【例】おじいちゃん・おばあちゃんに孫の写真を見せる



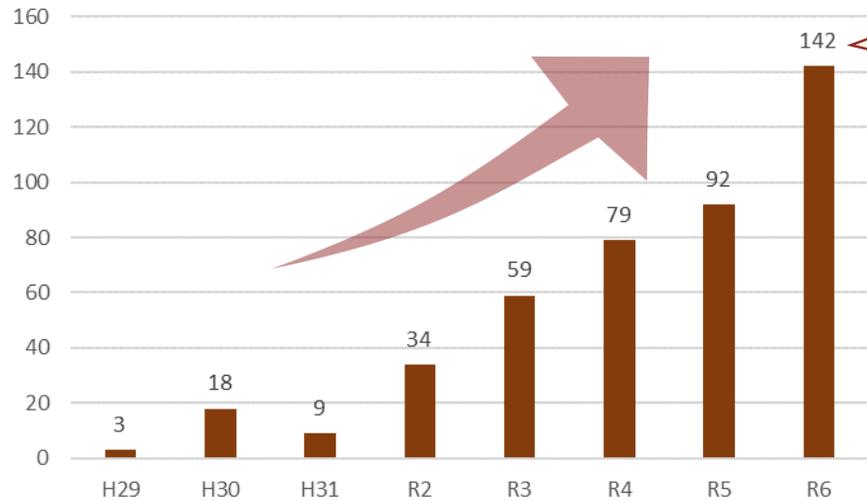
**IT化:** 一つひとつのプロセスをデジタル化  
→ いつまで経っても、下のフローにはたどり着けない

**DX:** プロセスそのものを変容・変革させる「全体最適化」



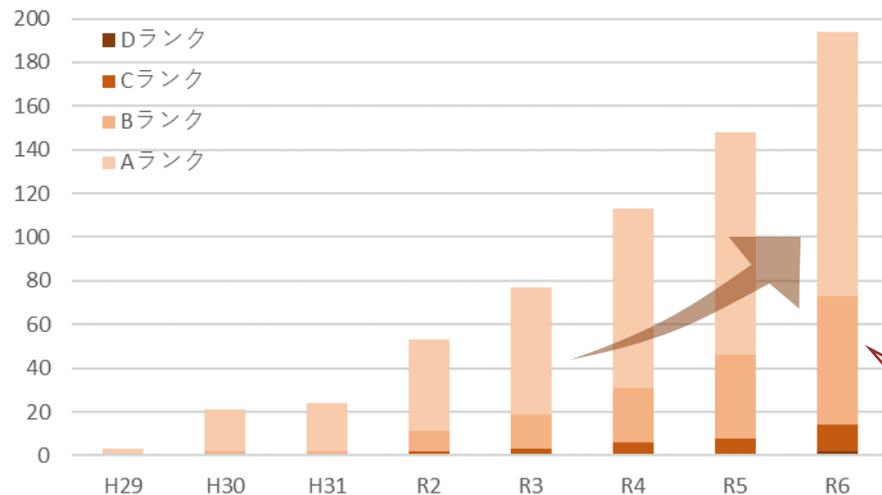


ICT活用工事実施数(年度別)

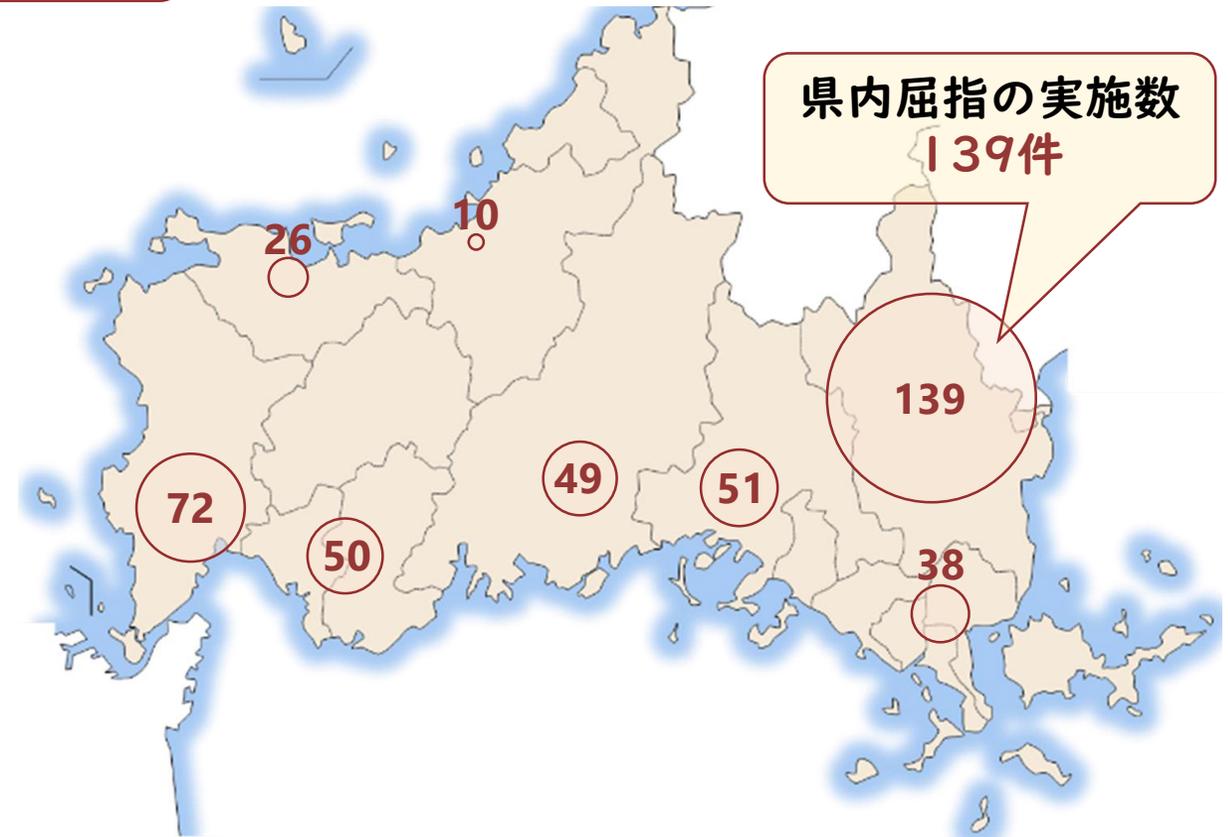


取組の成果  
が出てきた?

ICT活用工事新規参入業者数(計194社)



B~Dランクの  
取組が増加



H29.4~R7.3のICT活用工事実施件数 (計436件)

## ① ICT活用工事の中心軸の誤解



## ② 外注過多と多重下請構造



## ③ 行政エンジニア屋の意識



ICT活用工事における生産性向上の中心軸は③ICT建機による施工ではなく  
**②3次元設計データの作成**です

重要度の順位をつけるとすれば… ②→④=⑤→①→③です！



全ての2次元図面を3次元化する必要はありません。

生産性が上がらないのであれば、ICT建機を使用しなくても問題ありません。

活用する部分のみの作成でよく、Excelで作成した簡易なものでも構いません。

(一社) 日本建設機械施工協会施工技術総合研究所提供

# 課題①建設維新ICTのパターン (ICT土工)

	①3次元起工測量 		②3次元設計データ作成 		③ICT建機による施工 		④3次元出来形管理 		⑤3次元データの納品 	
①全部活用	面計測	見積	施工用・施工管理用	見積	ICT施工	ICT積算	面管理	ICT率補正	電子納品	補正なし
②全部活用 (起工測量なし)	データ流用 (※)	計上なし	施工用・施工管理用	見積	ICT施工	ICT積算	面管理	ICT率補正	電子納品	補正なし
③全部活用 (ICT建機施工なし)	面計測	見積	施工用・施工管理用	見積	現場条件により従来施工(※)	従来積算	面管理	ICT率補正	電子納品	補正なし
④全部活用 (出来形を断面管理)	面計測	見積	施工用・施工管理用	見積	ICT施工	ICT積算	現場条件により断面管理(※)	補正なし	電子納品	補正なし
⑤部分活用	従来計測	計上なし	施工用・施工管理用	見積	従来施工	従来積算	面管理	ICT率補正	電子納品	補正なし
⑥部分活用 (断面管理)	従来計測	計上なし	施工用・施工管理用	見積	従来施工	従来積算	現場条件により断面管理(※)	補正なし	電子納品	補正なし
⑦部分活用 (測量実施)	面計測	見積	施工用・施工管理用	見積	従来施工	従来積算	面管理	ICT率補正	電子納品	補正なし
⑧部分活用 (測量実施・断面管理)	面計測	見積	施工用・施工管理用	見積	従来施工	従来積算	現場条件により断面管理(※)	補正なし	電子納品	補正なし
⑨部分活用 (建機使用)	従来計測	計上なし	施工用・施工管理用	見積	ICT施工	ICT積算	面管理	ICT率補正	電子納品	補正なし
⑩部分活用 (建機使用・断面管理)	従来計測	計上なし	施工用・施工管理用	見積	ICT施工	ICT積算	現場条件により断面管理(※)	補正なし	電子納品	補正なし

※②:前工区で取得済、BIM/CIM対象工事等により測量済の場合  
 ※③:岩掘削等、現場条件によりICT建機が使用できない場合  
 ※④:積雪等、現場条件により面管理ができない場合

※⑥⑧⑩:ICT活用工事(小規模土工)の場合、面管理を必須としないが、面管理を実施するとさらに加点  
 ※施工履歴データを用いた出来形管理を実施した場合は、ICT建機で経費を加算しているため率補正はしない  
 ※ICT率補正は見積額との比較により採用する(国交省運用)

## なぜ、外注が増えている？

- ・国交省発注のICT活用工事の発注者指定型が増え、受注した業者の多くがICTに係る業務を外注している。
- ・外注することで、元請業者は新しい取組みにチャレンジすることなく、多くの業務が簡素化される。  
(そのため元請業者の現場責任者は非常に喜んでICT活用工事を実施している。)
- ・3次元測量、3次元設計データ作成費は見積のため、外注しても元請け業者の利益を十分確保することができる。

## 特定の業者への外注が増えると何が問題？

### 現場の待ち時間の増

- ・ICT活用工事を円滑に進めることができる建設会社が限られるため、業務過多となり、外注先の業務が滞る。
- ・3次元測量の僅かな追加や3次元設計データの簡単な修正であっても外注先の対応に合わせないといけないため、現場の待ち時間が増える。
- ・結果、ICT活用工事のメリットであるはずの工期短縮に逆行する。

### 3次元測量・3次元設計データ作成費の増

- ・3次元測量、3次元設計データ作成費は見積計上のため、外注費に元請け業者の利益を上乗して費用を請求される。
- ・ICT活用工事を円滑に進めることができる会社が限られるため、業務過多となり費用が増となる。
- ・費用が増となると、国に比べて発注ロットの小さい県の工事は、ICTを活用することによる費用増の割合がより高くなり、発注者がICT活用工事の導入に消極的になってしまう。(県民への説明も難しくなる)

中小規模の建設会社と付き合いの多い山口県は、  
外注過多とならないような取組みをする必要あり！

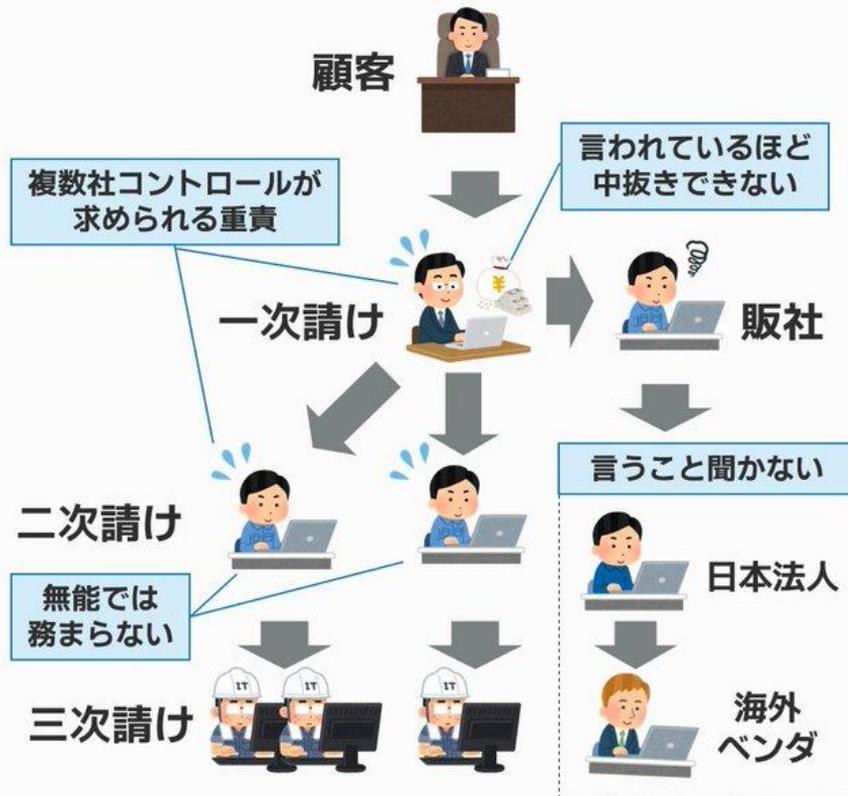
ICT活用工事に限った話ではありませんが・・・

## 多重下請構造の実態

### 一般的なイメージ



### 実態



一括下請けは「建設業法」で禁止されています!

# 課題②外注依存から内製化へ～測量・設計費ではなく準備費・技術管理費へ～

(イメージ) 3次元測量と3次元設計データ作成を内製化するとこうなります！



ICTの導入で測量や施工の省力化は進むが…  
自社で調整できないため、結局、トータルでの省力化が進まない

ICT施工  
(内製化)



現場作業部分を内製化  
で省人化と工程削減の両立可能

## 内製化をすることによる効果

- 測量のタイミングを自社で実施することで、施工と同時に作業の合間での計測が可能となり、測量の為の施工の待機時間が削減
- 3次元測量データの編集作業などを内製化で分担することで、現場管理に集中できる
- 自社人材を確保することで、ICT施工に必要な3次元設計データからBIM/CIMにつながるデータ作成まで対応できるノウハウを獲得

※分業が適することもありますので、全ての外注が好ましくないと言っている訳ではありません。  
※調整が必要ない外注の形を模索するという手もあります。

と、言うことは…

3次元設計データの内製化の次ステップは、ICT建機による施工ではなく、**3次元点群データ利活用の内製化**です！

3次元測量と3次元設計データ作成は「測量・設計費」から「準備費・技術管理費」へ！

## 5つの施工段階

## 発注者にとっての主なメリット

### 3次元 起工測量

- 現場確認の回数が減る（高精度な点群データがあれば手元に現場があるようなもの）
- 測量結果のチェックがしやすい（3次元データを画面上で確認できる）
- 測量成果の理解が簡単（2次元図面ではイメージしづらい地形も3次元データなら直観で理解）
- 危険な現場での立ち合いが不要（急斜面や河川敷など、危険な場所での測量立ち合いを減らせる）



### 3次元設計 データ作成

- 関係者との打合せが楽になる（3次元モデルを使うことで合意形成がスムーズ）
- 設計ミスの早期発見ができる（施工前にチェックができるので、手戻りが減る）
- 住民説明で説得しやすい（3次元イメージを使って説明できるので住民からの理解を得やすい）
- 施工の品質が向上する（データに基づいた2次製品の据付ができるため、現場の品質が向上する）



### ICT建設機械による 施工

- 一定の品質が確保できる（ICT建機が自動で精度の高い施工を行う）
- 施工の進捗が把握しやすい（現場に行かなくてもデータで施工状況の確認ができる）
- トラブル対応の時間が短縮される（施工期間が短くなるため、調整や手戻りが少なくなる）
- 不正防止につながる（施工データが記録されるため、出来形のごまかしが難しくなる）



### 3次元出来形管理等 の施工管理

- 現場での出来形確認が簡単になる（巻尺や計測機器を用いて測ることはない）
- 出来形管理書類や検査書類の量が減る（確認作業が楽になる）
- 検査時のミスが減る（目視での確認ではなくデータに基づいた客観的なチェックが可能）
- 不正防止につながる（施工データが記録されるため、出来形のごまかしが難しくなる）



### 3次元データの納品

- 過去の工事データを簡単に検索できる（数年後でも工事内容をすぐに把握できる）
- 大容量のデータが保存できる（3次元データであっても問題なく保存できる）
- 維持管理業務の負担を減らせる（修繕や点検の際に活用できるため、現場確認の手間を減らせる）
- 業務の引継ぎが楽になる（3次元データを使うことで新任の職員でも工事内容が把握しやすい）



ICT活用工事を推進すれば、発注者個人の業務負担が減るだけでなく、働き方改革にもつながるので、積極的に導入を進めるメリットは超絶に大きい！

- ①現場に行く回数が減る  
→ 効率的に業務ができ、負担が軽減される。
- ②検査や確認が楽になる  
→ 書類作成や測定の手間が大幅に削減。
- ③ミスやトラブルが減る  
→ 設計ミスや施工のやり直しが少なくなり、ストレスが減る。
- ④他部署や関係者との調整が楽になる  
→ 3Dデータを使った説明ができ、意思疎通がスムーズに。
- ⑤将来の業務が楽になる  
→ データが資産として蓄積され、維持管理や次の工事に活用できる。

平成29年	7月	1日	ICT土工の開始（特記仕様書と履行証明書のルール適用開始）
令和2年	5月	1日	ICT土工に付帯構造物設置工を追加 ICT舗装工・ICT河川浚渫の追加
令和2年	10月	1日	国の積算要領の変更による改正
令和3年	5月	1日	ICT法面工の追加
令和3年	10月	1日	ICT舗装工（修繕工）の追加（履行証明書のシステム出力開始）
令和4年	10月	1日	ICT土工に小規模土工を追加 県の積算要領を廃止 入札公告への明記を廃止 ICT河川浚渫→ICT河川浚渫工への名称変更 ICT舗装工（修繕工）→ICT舗装工への名称変更
令和5年	5月	1日	特記仕様書及び履行証明書の廃止 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用積上げの補足を追記
令和6年	10月	1日	試行から実施への変更 発注者指定型の導入 国が基準を持つ全工種を対象に オンライン電子納品の必須化
令和7年	10月	1日	発注者指定型に路盤工事（ICT舗装工）を追加

ICT活用工事は、現場の規模を問わず、  
建設現場の生産性向上や働き方改革を後押しする重要な手段です。

令和6年10月から「河川堆積土砂撤去工事（ICT土工）」「測量・設計時に3次元データを取得・作成した工事」は発注者指定型とし、ICT活用工事はオンライン電子納品を必須にしました。

令和7年10月から「路盤工事（ICT舗装工）」を発注者指定型とする予定です。

ICT建機を使うことがICT活用工事ではないこと、ICTの活用は現場の規模を問わないというメッセージを出すため、予算規模により非効率の場合は実施しなくて良いという条件はあるものの、**土量や金額による制限は設けない**方針としています。

## 追加する発注者指定型

### ○路盤工事

(3次元設計データを活用したTSによる出来形管理もICT活用工事と認める)

### これまでの発注者指定型

### ○3次元測量または3次元設計データが準備されている工事

(例)

- ・ BIM/CIM対象事業で測量設計時に準備されている場合
- ・ 周辺工区の工事内で3次元測量を実施している場合
- ・ 周辺工区の施工履歴データ等により3次元設計データが準備されている場合

### ○河川堆積土砂撤去工事

ICT活用工事をすることで、最も生産性向上が図れる工種であるため

#### ■適用対象外

- ・ 山口県土木工事施工管理基準に基づく出来形管理を行わないもの
- ・ 予算上の制約があるもの

# 路盤工事（ICT舗装工）の概要

- ・ 下層路盤工事と上層路盤工事が対象
- ・ ②④⑤のみも可
- ・ ④についてはTSによる出来形管理も可

① 3次元測量

② 3次元設計  
データ作成

③ ICT施工

④ 出来形管理  
(TSによる管理も可)

⑤ 3次元データ納品

参考：TS等光波方式を用いた出来形管理の詳細な記載箇所は下記のとおり  
3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）令和7年3月版参照

- 第1編 総則
  - 第1章 3次元計測技術を用いた出来形管理の適用工種・適用範囲一覧
  - 第2節 舗装工における適用工種・適用範囲一覧
    - 2-2 断面管理の場合
- 第3編 出来形管理編
  - 第2章 断面管理
- 技術概要集 TS等光波方式

## ③ ICT施工



## ④ 出来形管理



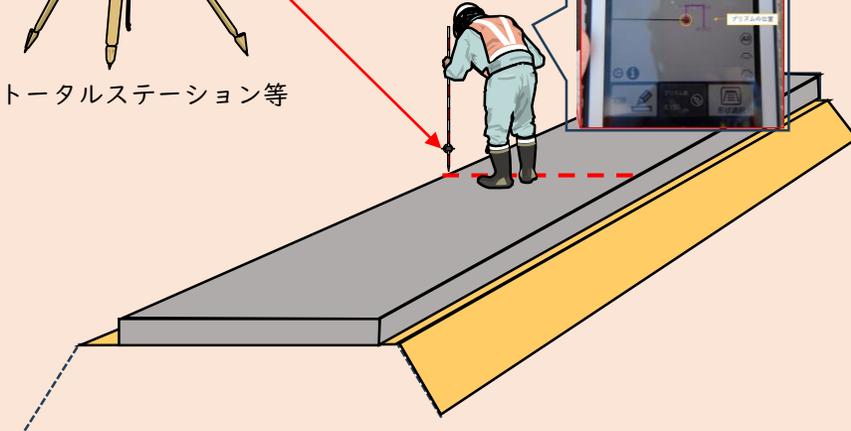
地上型レーザーキャナー

TLSを用いた出来形管理（面管理）



トータルステーション等

3次元設計データ搭載  
データコレクタ



TS等光波方式を用いた出来形管理（断面管理）

■ アスファルト舗装工のみの工事については、従来どおり受注者希望型とする（TSによる出来形管理については推奨）  
→ アスファルト舗装工の面管理による求める基準のレベルが高く、ICT技術の導入に伴うコストの増加、既存の作業方法との相性の悪さ、データ管理の複雑さなどから、現時点では積極的に取り組むものではないと判断。

## 2025～：建設維新ICTセミナー3.0 (もっと小規模現場を対象)

建設維新ICTセミナー3.0(カセタイシユウ編)  
令和7年度 主催：山口県  
**建設維新ICTセミナー3.0**  
カセタイシユウ編  
(河川堆積土砂撤去工事で習得しよう！)

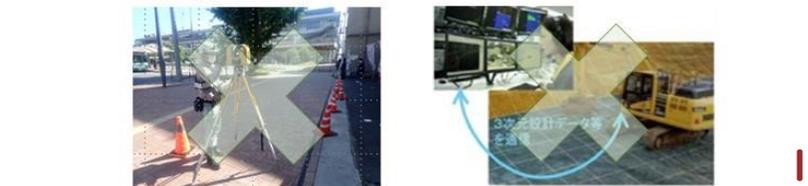
令和6年10月からICT活用工事の発注者指定型の対象となった河川堆積土砂撤去工事において、実現場を使ってICTを体験するセミナーです。  
小規模工事で活用できるICTの紹介や、普段の工事で実施することが多い位置出し作業等を、3次元データとトータルステーション(TS)を用いて演習を行います。今回の講習会では3次元点群データやICT建機は使用しません。

- 日時** 令和7年6月25日(水) 10:00～16:00 (受付9:45)
- 場所** 座学：下松市役所5階503号会議室  
体験：準用河川生野屋川(下松市生野屋西1丁目)
- 定員** 20名(先着順)
- 対象者** 小規模の河川堆積土砂撤去工事でICT技術を活用し現場の生産性を爆上げしたい建設会社の方
- 申込み** 右に示すQRコードを読み取り、申込みフォームから申請してください。  
※申込受付期間：令和7年6月24日(火)17時まで
- その他** 本セミナーは継続学習制度(CPDS)の認定を受けています。  
(4ユニット)  
※マイナンバーカードなど本人確認ができるものを持参してください。

**セミナーの内容**

- 小規模工事におけるICT活用のポイント
- 簡易な3次元設計データ作成実習
- 3次元データを活用した計測実習と出来形帳票作成実習

※今回の講習会ではドローンやレーザースキャナによる点群やICT建機は使用しません！



## 2023～：建設維新ICTセミナー2.0 (小規模現場を対象)

第1回 実務者向け講習会(基礎編)  
令和5年度 主催：山口県  
小規模現場向け  
**建設維新ICTセミナー**

ICT技術に対し興味はあるが触れる機会がない施工者を対象に、小規模工事で活用できるICT技術の紹介や、普段の工事で実施することが多い位置出し作業等を、3次元データとトータルステーション(TS)を用いて演習を行います。

**日時** 令和5年7月18日(火) 13:15～16:40 (受付13:00)

**場所** 山口県柳井総合庁舎 2階 大会議室 (柳井市南町3丁目9-3)

**定員** 25名(先着順)

**対象者** ・ICT活用工事未経験の方  
・建設維新ICTセミナーを受講されたことがない方

**申込み** 右に示すQRコードを読み取り、申込みフォームから申請してください。  
※申込受付期間：令和5年7月4日(火)17時まで

**その他** 本セミナーは継続学習制度(CPDS)の認定を受けています。  
(3ユニット)  
※マイナンバーカードやCPDS技術者証など本人確認ができるものを持参してください。

**セミナーの内容**

- 山口県の建設DXについて
- 小規模工事におけるICT活用のポイント
- 簡易な3次元設計データ作成実習
- 3次元データを活用した計測実習と出来形帳票作成実習



## 2020～：建設維新ICTセミナー1.0 (中規模現場を対象)

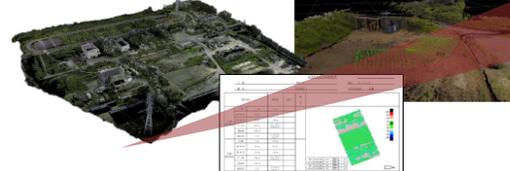
主催：山口県  
**山口県 建設維新ICTセミナー**  
実務者向け講習会(応用編)

ICT活用工事の経験はあるが、「内製化を目指したい」あるいは「ICT技術や3次元データをさらに活用する方法を知りたい」といった実務者向けに、3次元データ作成・照査に関する実習や、3次元データの応用事例の紹介・体験を行います。

- 日時** 令和2年10月29日(木) 9:30～16:50
- 場所** 山口県セミナーパーク 一般研修室 101 (山口市秋穂二島1062)
- 定員** 25名
- その他** このセミナーは、CPDSユニット申請中です。

**セミナーの内容**

- 山口県の建設ICT普及推進の取組みについて
- ICT活用工事における3次元データの活用方法について
- 3次元データの作成実習
- 3次元データを用いた設計照査実習
- 3次元データの応用事例の紹介と体験



## カセタイシュウ編

河川堆積土砂撤去工事でICTを習得しよう！

■令和6年10月から河川堆積土砂撤去工事は発注者指定型

## ロバミミ編

路盤工事のICTを見て身に着けよう！

■令和7年10月から路盤工事は発注者指定型

## ノリスケ編

法面工事の出来形管理をスケールなしで効率化しよう！

■令和8年10月から法面工事は発注者指定型 (検討中)

### 建設維新ICTセミナー3.0(カセタイシュウ編)

第3回 令和7年度 主催：山口県

## 建設維新ICTセミナー3.0

カセタイシュウ編  
(河川堆積土砂撤去工事で習得しよう！)

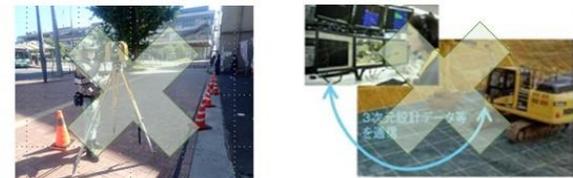
令和6年10月からICT活用工事の発注者指定型の対象となった河川堆積土砂撤去工事において、実現場を使ってICTを体験するセミナーです。  
小規模工事で活用できるICTの紹介や、普段の工事で実施することが多い位置出し作業等を、3次元データとトータルステーション(TS)を用いて演習を行います。今回の講習会では**3次元点群データやICT建機は使用しません。**

- 日時** 令和7年9月25日(木) 10:00~16:00 (受付9:45)
- 場所** 座学：美祢市民会館 (美祢市大嶺町東分326-1)  
体験：二級河川厚狭川 (美祢市西厚保町本郷)
- 定員** 20名 (先着順)
- 対象者** 小規模の河川堆積土砂撤去工事でICT技術を活用し現場の生産性を爆上げしたい建設会社の方
- 申込み** 右に示すQRコードを読み取り、申込みフォームから申し込んでください。  
※申込受付期間：令和7年9月18日(木)17時まで
- その他** 本セミナーは継続学習制度(CPDS)の認定を受けています。(4ユニット)  
※マイナンバーカードなど本人確認ができるものを持参してください。



- セミナーの内容**
- 小規模工事におけるICT活用のポイント
  - 簡易な3次元設計データ作成実習
  - 3次元データを活用した計測実習と出来形帳票作成実習

※今回の講習会ではドローンやレーザースキャナによる点群やICT建機は使用しません！



### 建設維新ICTセミナー3.0(ロバミミ編)

第1回 令和7年度 主催：山口県

## 建設維新ICTセミナー3.0

ロバミミ編  
(路盤工事のICTを見て身に着けよう！)

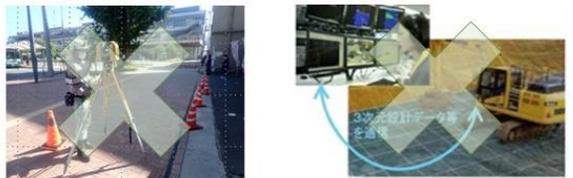
令和7年10月からICT活用工事の発注者指定型の対象と予定しているICT舗装工(路盤工)において、実現場を使ってICT技術を体験するセミナーです。  
小規模工事で活用できるICT技術の紹介や、普段の工事で実施することが多い位置出し作業等を、3次元データとトータルステーション(TS)を用いて演習を行います。今回の講習会では**3次元点群データやICT建機は使用しません。**

- 日時** 令和7年9月22日(月) 10:00~16:00 (受付9:45)
- 場所** 座学：下松市役所2階201会議室  
体験：都市計画道路豊井恋ヶ浜線道路築造現場
- 定員** 20名 (先着順)
- 対象者** 路盤工事でICT技術を活用し現場の生産性を爆上げしたい建設会社の方
- 申込み** 右に示すQRコードを読み取り、申込みフォームから申し込んでください。  
※申込受付期間：令和7年9月15日(月)17時まで
- その他** 本セミナーは継続学習制度(CPDS)の認定を受けています。(4ユニット)  
※マイナンバーカードなど本人確認ができるものを持参してください。



- セミナーの内容**
- 小規模工事におけるICT活用のポイント
  - 簡易な3次元設計データ作成実習
  - 3次元データを活用した計測実習と出来形帳票作成実習

※今回の講習会ではドローンやレーザースキャナによる点群やICT建機は使用しません！



### 建設維新ICTセミナー3.0(ノリスケ編)

第1回 令和7年度 主催：山口県

## 建設維新ICTセミナー3.0

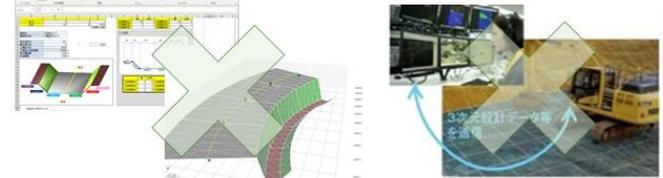
ノリスケ編  
(法面工事の出来形管理をスケールなしで効率化しよう！)

令和8年10月からICT活用工事の発注者指定型の対象と予定しているICT法面工(植生工・吹付工)において、実現場を使ってICT技術を体験するセミナーです。法面工事の出来形管理で活用できるICT技術の紹介や、レーザースキャナを用いた演習を行います。今回の講習会では**3次元設計データやICT建機は使用しません。**

- 日時** 令和7年●月●日(●) 10:00~16:00 (受付9:45)
- 場所** 座学：●●  
体験：●●
- 定員** 20名 (先着順)
- 対象者** 法面工事でICT技術を活用し現場の生産性を爆上げしたい建設会社の方
- 申込み** 右に示すQRコードを読み取り、申込みフォームから申し込んでください。  
※申込受付期間：令和7年9月15日(月)17時まで
- その他** 本セミナーは継続学習制度(CPDS)の認定を受けています。(4ユニット)  
※マイナンバーカードなど本人確認ができるものを持参してください。

- セミナーの内容**
- 小規模工事におけるICT活用のポイント
  - 3次元点群データ取得体験
  - 3次元点群データの利活用と出来形帳票作成実習

※今回の講習会では3次元設計データやICT建機は使用しません！



## 小規模土工でTS出来形技術やAR技術を使ってみました

下松市役所が発注した小規模現場での取り組みを紹介した動画です。



<https://youtu.be/I7TuQchK1fU>



## DXで変わる建設現場～株式会社木村建設の取組～

周防大島という離島で活躍する建設会社の取り組みを紹介した動画です。



<https://youtu.be/rk4WxGNDpj0>



建設維新ICT支援プロジェクトin下松の様子はこちら



「地方で奮闘する建設会社」  
株式会社木村建設  
[Instagram](#)



KIMURAKENSETSU

山口県土木建築部は、社会情勢の変化や技術開発の進展等を踏まえ、常にアップデートを行い、「県民の安心・安全で豊かな生活」の実現に向けて積極的にチャレンジします。

## CONTACT

担当：山口県 土木建築部 技術管理課 建設DX推進班

TEL：083-933-3640

Mail：[a18000@pref.yamaguchi.lg.jp](mailto:a18000@pref.yamaguchi.lg.jp)



※山口県土木建築部は基本姿勢である「失敗を恐れない」に基づきチャレンジをしますが、失敗することもあります。失敗を見つけたら教えてください。随時軌道修正します。